

図書館

2026年11月



【特別展示】
白井市立図書館所蔵「シンガポール共和国関係資料」



12月6日まで

12月5日(土)白井市文化会館で「シンガポール大使講演会」が開催されます。図書館ではシンガポール共和国に関連する本を展示します。本を通して文化や歴史を感じてみませんか。

読書週間とは

終戦の2年後の1947年（昭和22年)、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせ、さらに新聞・放送のマスコミ機関の協力のもとに、第1回「読書週間」が開催されました。

第1回の「読書週間」は11月17日から23日。これは11月16日から1週間にわたって開かれるアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」にならったものです。各地で講演会・図書に関する展示会が開かれ、その反響は大きなものでした。「一週間では惜しい」との声を受け、現在の10月27日から11月9日（文化の日をはさんで2週間）となったのは、第2回からです。

それから80年、「読書週間」は国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民」の国となりました。その一方、物質生活の豊かさに比べ精神生活の低迷が問題視されている昨今、論理的思考の基礎となる読書の重要性は、ますます高まってきています。

本年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりの読書への関心と、読書習慣の確立の契機となることを願ってやみません。　（文：公益社団法人読書推進運動協議会）





【企画展示】 図書館員のおすすめ本

『ひのえうまに生まれて　―300年の呪いを解く―』　酒井順子／著　新潮社

なぜか幼い頃から自分が丙午生まれであることを認識し、なんとなく引け目に感じていたのは、こんな呪いがかけられていたからなのだと改めて知ることができる1冊です。

同じ1966年に生れた著者が、丙午生まれの女性は「男を喰い殺す」という江戸時代からの「迷信」の正体に迫ります。理不尽な俗説の歴史を紐解きながら、現代にも形を変えて根深く残る「世間の同調圧力」や「女性への偏見」を鮮やかに言語化してくれています。

還暦を迎え、令和の丙午がやってきた今こそ、呪縛から自由になり、これまでのあゆみを共に称え合い、これからの人生をさらに軽やかに生きる勇気をくれる私たちのための知的で爽快な考察本です。

25日まで

図書館ホームページ　テーマごとのリスト　や　らーばん NAVI　本の紹介をしています。

おはなしかい　4・11・18・25日
毎週水曜日　午後3時30分から
対象：一人でおはなしが聞けるお子さん
内容：絵本の読み聞かせ

親子おはなしかい
25日（水）午前11時から
対象：小学校未就学児とその保護者
内容：わらべうた、絵本の読み聞かせ

暮らしの中に図書館を
白井市立図書館
Shiroi Public Library



<休館日>
月曜日
26日

<開館時間>
火曜日　午前9時30分～午後7時
水～日曜日・祝日　午前9時30分～午後5時